

と尙ほ一説に、

初め元の成吉思汗支那に侵入するや、土耳其及土耳其斯坦よりマホメット宗を奉ずる人々、多く従軍し來りて、其際漢土に殘留したるもの即ち是なり。

或は又土耳其種族の漢化したるものなり等、所説紛々たるも、今是等を玩味し、且つ他の記録或は古老の口碑に徴して考ふるときは、東干種族は、一に回鶻族の唐に滅ぼされし際、支那西部、即ち甘肅邊に移住し、尙ほ成吉思汗に従軍して、其の儘に居残り、遂に漢化したる西土耳其機斯坦人、所謂歸化漢人の謂なるべし。「トングアン」の稱之を地名より轉化したりと云ふが如きは、全く誤謬とす。何となれば、東干の稱は既に叛亂以前より存在したればなり。要するに東干は、唐以東、回鶻の遺民并に土耳其若くは、西土耳其機斯坦人の歸化したる者等、種々混交せし民族多しとするも、其の大部は、現在の露領サマルカンド地方より歸服し、其の祖先は、土耳其種族に、しや明かなりとす。以下少しく其來歴を記すべし。

遠く支那春秋の時代に當り、中央亞細亞の阿爾泰山附近に於て、廣大なる面積を有せし土耳其種族の居住地ありたり。該種族は、其後次第に中央亞細亞一帶の地

春秋時代  
と土耳其  
族